安曇野市新市立博物館構想

概 要 版

平成27年11月

安曇野市

Ⅰ 前提条件の整理

本構想の目的

安曇野市では、平成23年9月に安曇野市文化振興計画（以下、振興計画）を策定し、平成27年度現在、9館の美術館・博物館施設（以下、博物館等）を芸術文化活動の拠点として利用しています。

また、安曇野市総合計画後期基本計画では、「施設の再編整理と新市立博物館構想の両立」、振興計画では、「郷土の情報センター・学習センターとなるべき新市立博物館について構想の具体化」を目指しています。

本構想では、こうした市の政策のもと、博物館等の再編整理と、新市立博物館の在り方をまとめています。

博物館施設の現状と課題

市立の博物館等9館では、市民の財産である資料の収蔵・保管を担っています。しかし、施設の多くは設立から20～30年が経過し、老朽化が進み、また町村合併などさまざまな情勢の変化によって時代にそぐわなくなってきています。

市立の博物館等の現状

館　名・住　所	開館年 構　造	敷地面積 延床面積	主な収蔵資料	備　考
豊科近代美術館 豊科 5609 番地 3	H4.4 月 ＲＣ造 2 階建	33,308 ㎡ 3,543 ㎡	高田博厚彫刻 宮芳平絵画 山岳写真コレクション	登録博物館 指定管理 「安曇野文化財団」
豊科郷土博物館 豊科 4289 番地 8	S54.6 月 ＲＣ造 2 階建	2,016 ㎡ 1,059 ㎡	市内遺跡出土土器 民具(稲作、養蚕、生活) 古文書	登録博物館
高橋節郎記念美術館 穂高北穂高 408 番地 1	H15.6 月 ＲＳ造 2 階建	6,549 ㎡ 1,301 ㎡	高橋節郎漆芸作品	登録博物館
田淵行男記念館 豊科南穂高 5078 番地 2	H2.7 月 木造 2 階建	1,254 ㎡ 311 ㎡	田淵行男写真作品、ガラス乾板、フィルム 田淵行男賞受賞者作品	登録博物館 指定管理 「安曇野文化財団」
貞享義民記念館 三郷明盛 3209 番地	H4.11 月 ＲＣ造 2 階建	8,002 ㎡ 1,014 ㎡	義民関係資料 古文書	
白井吉見文学館 堀金烏川 2701 番地	H3.7 月 木造 平屋建	603 ㎡ 139 ㎡	「安曇野」生原稿 書簡 愛用品	指定管理 「ほたるぶくろ」の会
飯沼飛行士記念館 豊科南穂高 3888 番地 2	H1.4 月 木造 2 階建	95 ㎡ 74 ㎡	報道記事 写真パネル	指定管理 「安曇野文化財団」
穂高陶芸会館 穂高 8414 番地 17	S58.3 月 Ｓ造 平屋	4,252 ㎡ 684 ㎡	古民芸陶器 （洗馬焼/入道焼/信斎焼）	（H26 年度から指定管理） 「安曇野文化財団」
穂高郷土資料館 穂高有明 7327 番地 72	S47 ＲＣ造 2 階建	4,464 ㎡ 478 ㎡	穂高地域民具 穂高地域遺跡出土土器 穂高人形	

課題

① 建物の老朽化と耐震補強の未整備

施設本体の老朽化が進んでいる。
耐震補強が未整備の施設もある。
バリアフリーやユニバーサルデザインが不十分で誰もが利用できる状態にはない。

② 博物館活動を行う施設・設備の不足

収蔵品を安全に保存するスペースが狭く、温湿度管理などの保存環境が整っていない。
トラックヤード、荷解室、学芸員の作業スペース、市民の学習スペースなどが不足している。

③ 利用者数の限界

博物館等の積極的な活動はあるものの、利用者の増加が限定的である。

④ 活動理念・事業内容の課題

活動理念や事業内容が旧5町村単位のままで、安曇野市全体の中で役割が明確になっていない。
博物館等の間で重複して扱う分野がある一方で、扱うべき要素（自然、通史など）が見られない。

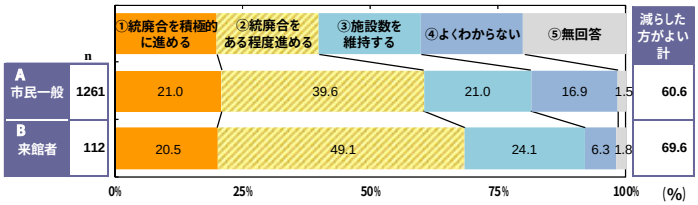
⑤ 専門者の不足

充実した博物館活動を支える学芸員体制がとれていない。
在野の専門家は高齢化などで減少、郷土の価値を語れる「人材」が見られなくなってきた。

市民の意識　（アンケート結果より）

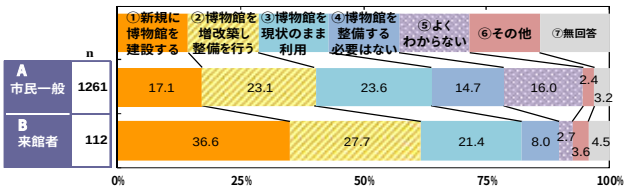
博物館の統廃合への要望

アンケートに回答した市民の約60％が、統廃合を進める必要性を感じています。また、回答した来館者においては、高い割合で統廃合の必要性を感じていることがうかがえます。



博物館の整備への要望

アンケートに回答した市民のうち、新築または改修を望む意見と、現状の施設をそのまま利用する意見はほぼ半々。一方、来館者の多くは新規建築や改修を望んでいます。



A:安曇野市民
B:安曇野市内博物館・美術館来館者
※博物館・美術館来館者は複数回答あり

H27年度　安曇野市新しい博物館のあり方関する意識調査

Ⅱ 博物館の再編整理と新市立博物館の方向性

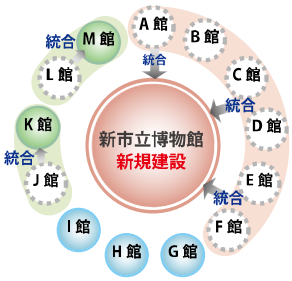
再編整理の考え方

博物館等が抱える課題の解決にむけて、博物館等の再編整理と新市立博物館の設置が望まれます。その具体的な方法には、次の3つの方向性が考えられます。

●博物館等の再編整理と新市立博物館の設置の方向性

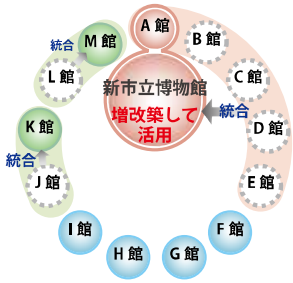
ケース1
新市立博物館を新規建設する

既存施設のいくつかは新市立博物館に統合。他の施設どうしの統合も想定。



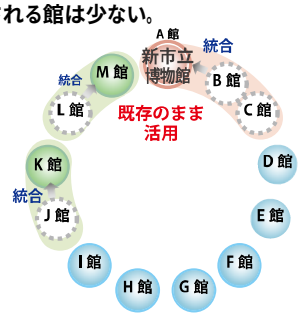
ケース2
既存施設を増改築する

既存施設のいずれかを、敷地・建物を増改築し、新市立博物館とする。既存施設の統合も想定。



ケース3
施設整備せず既存施設を活用する

施設整備は行わずに、既存施設を新市立博物館とするケース。ケース1や2より統合される館は少ない。



(1)ケース別の検証 (右表)

ケース1～3について、課題解決に向けての検証を行うと右のようになり、ケース1(新規建設)が課題解決に有効であることが分かります。

(2) 増改築が可能な施設

既存施設では豊科郷土博物館の増改築が最も現実的ですが、敷地面積が限られるため拡張性に乏しく、課題を抱えたままでの施設整備となってしまいます。

(3) 改修・建築費用について

新市立博物館の整備には多額の費用が必要となります。しかし、既存施設の増改築でも耐震工事などを行うため、かなりの費用負担を伴います。

●ケース別の検証 ○…改善が見込まれる △…改善は限定的 ×…改善は難しい

課　　題	ケース 1	ケース 2	ケース 3
①建物の老朽化と耐震補強の未整備	○	△ 同じ面積の新築と差がない	ー 改修はしない
②博物館活動を行う施設・設備の不足	○	△ 拡張性がない	×
③利用者数の伸び悩み	○ 複合化も可能	△ 拡張性がない	×
④活動理念・事業内容の課題	○ 統廃合館の要素をすべて吸収できる	× 統廃合館の要素を吸収できない	×
⑤専門者の不足	○ 自然科学なども含め総合的な学術機関としての対応が可能	△ 活動スペースの不足	× 活動スペースの不足

新市立博物館の新規建設を目指して

上記の検討をふまえると、新市立博物館を新規建設することにより、安曇野市の博物館が抱える様々な課題に対応できることが分かります。
本構想では、長期的な視野に立ち、新規建設を目指すこととします。
立地に当たっては市有地の活用や文化ゾーンの形成など、立地条件も加味しながら用地の選定を考えます。

統廃合のありかた

新市立博物館の設置を前提として、旧5町村時代から続く中小の博物館等は、その役割等を見極めた上で統廃合を進める必要があります。実際には、旧町村時代からの経緯や関係の意向に十分配慮しつつ、慎重な判断が求められることは言うまでもありません。統廃合の対象となった施設については、その後の取り扱い、資料の有効活用など、最大限の配慮が必要となります。

本構想では、廃止または統合する施設の前提として、以下の条件に複数該当するものを対象としました。

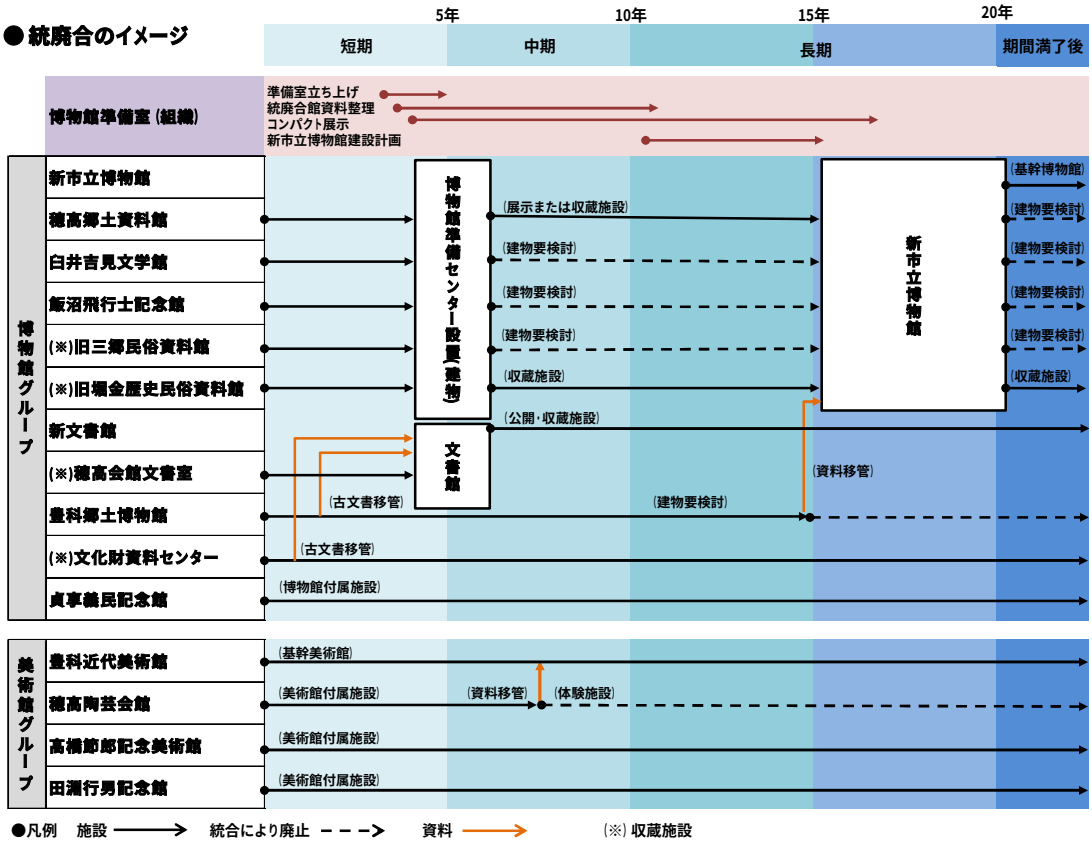
統廃合を検討する施設の条件

① 施設の老朽化が顕著である。
② 耐震基準を満たしていない。
③ 入館者が年間1,000人以下である。
④ 学芸員による活動や展示替えが見込めない。
⑤ 資料の劣化が顕著で保全の必要がある。

統廃合の方向性

新市立博物館の整備には、15～20年程度の長期的視野で整備する方向性が現実的です。ただし、用地の確保や将来の財政計画の見通しなど諸条件が整った場合は、合併特例債を活用し平成32年度までの建設を検討します。

●統廃合のイメージ



●凡例　施設 ——→　統合により廃止 - - -→　資料 ——→　(※) 収蔵施設

●新市立博物館が設置されるまでの間は、豊科郷土博物館を基幹博物館として、施設整備を行いながら使用します。

●穂高郷土資料館は新市立博物館設置後統合を見込みます。

●博物館等が直面している課題を解決するため、後述する博物館準備センター（仮称）の設置などの展開を図る必要があります。

●博物館準備センター設置後、臼井吉見文学館、飯沼飛行士記念館を閉館し、同センターで資料整理を行った上で、新市立博物館の展示等に繋げていきます。

統廃合や新市立博物館設置にむけた条件整備

博物館準備室の創設および博物館準備センター（仮称）の設置

統廃合館の資料整理や、コンパクト展示の制作、新市立博物館建設に向けた活動を行うため、学芸員を中心とした組織「博物館準備室」を創設します。その拠点施設として博物館準備センター（仮称）を設置し、新市立博物館ができるまでの間、博物館の機能を補い、活動には市民の参加を促します。

人材育成と資料活用の機会拡大

統廃合の対象となった施設の資料や、過去の企画展の展示等を活用してコンパクトな展示を作り出す取り組み（コンパクト展示）を展開します。市内各地の施設を巡回し、多くの市民が資料に触れ、その価値を知る機会を増やします。また、学芸員が中心となり、市民の協力も得ながら展開を図ることで、地域文化をリードする人材の育成につながると期待されます。

学芸員体制の充実

若手の学芸員を育てつつ、安曇野市のあり様を多面的に明らかにする活動体制づくりを進める必要があります。

「公共施設再配置計画」との整合性

「公共施設再配置計画」基本方針と、本構想との整合性を図ります。

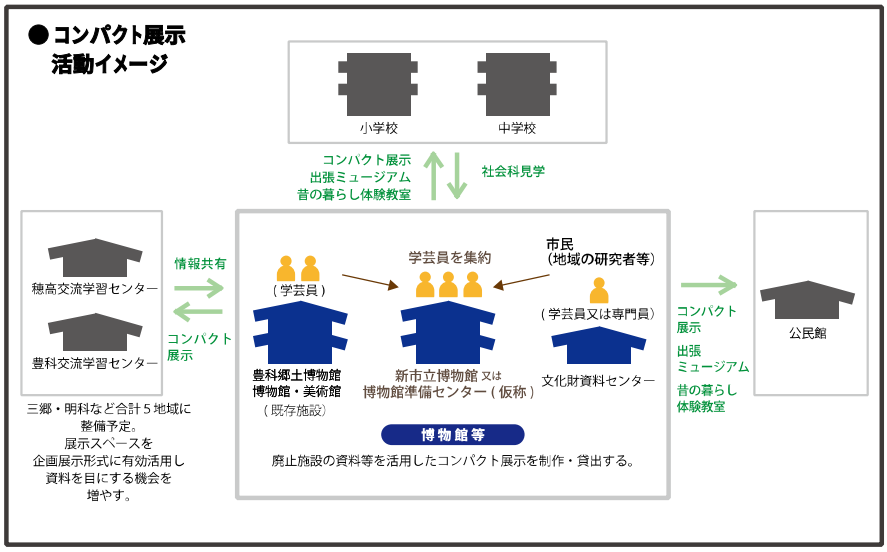
豊科郷土博物館の改修

豊科郷土博物館は老朽化が進み耐震基準も満たしていません。新市立博物館の建築が15～20年先となった場合、早期に最低限の改修が必要です。

文書館の必要性

市では歴史的公文書約43,000点、古文書約36,000点を収集しており、一般公開できる施設を探す必要があります。

●コンパクト展示
活動イメージ



III 新市立博物館が目指す姿

新市立博物館の基本理念

自然と人々の営みが生み出した安曇野の文化を
市民とともに「守り」「育て」「創る」

私たちの地域に伝わる伝統行事や歴史、堰から広がる田園風景などは、豊かな自然とそこに住む人々がお互いに関係しあうなかで生み出されてきた安曇野の文化です。 新市立博物館は、これらの文化を、市民と手を携えて守り、未来に向けて創りだし、郷土への誇りや愛着を抱く心を育て、安曇野市を「学ぶ心が育ち、文化のかおるまち」へと創り上げていくことを目指します。

新市立博物館の基本方針

方針 1
安曇野の文化を受け継ぎ、未来に伝える博物館

方針 2
誰もが親しみやすく、楽しめる博物館

方針 3
学びの輪を広げ、市民と協働する博物館

安曇野市らしい博物館とは

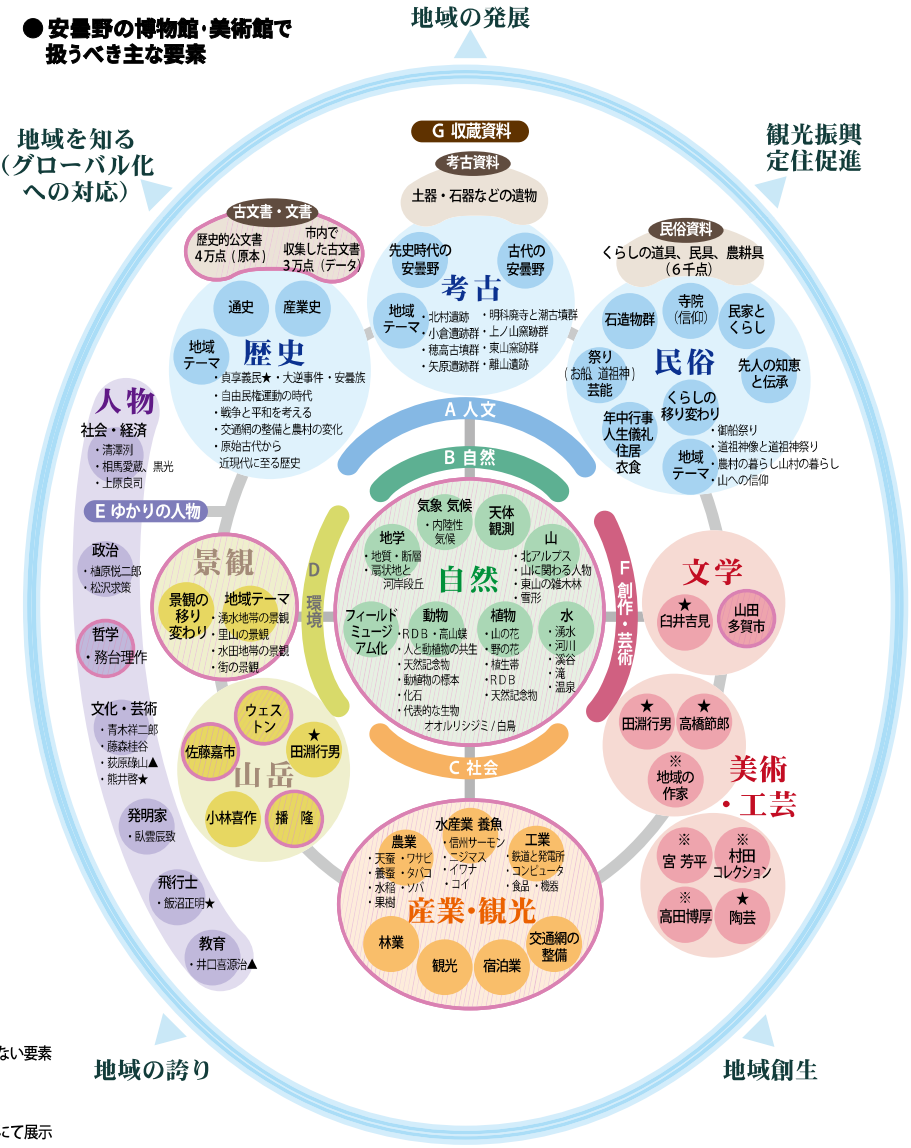
安曇野市の価値を明らかにする総合博物館を目指して

新市立博物館は「**総合博物館**」として、自然・歴史・民俗・文化・産業など、人文系と科学系を幅広く扱い、安曇野市の本質的な価値を多面的に明らかにする活動をしていきます。
（特に、博物館等でほとんど取り上げてこなかった北アルプスの景観や自然の要素など）

地域の発展に寄与

安曇野市の素晴らしさを内外に発信する魅力ある博物館活動を展開していくことで、将来、さまざまな形で地域の発展に寄与すると考えます。

●安曇野の博物館・美術館で扱うべき主な要素



◯：現在扱われていない要素
★：公立施設あり
▲：私立施設あり
※：豊科近代美術館にて展示

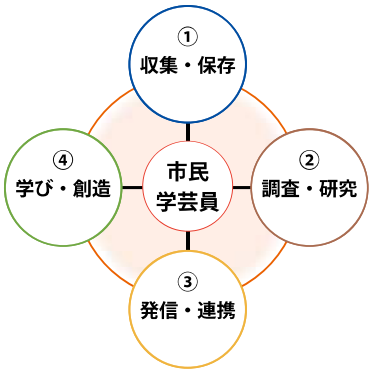
新市立博物館の役割

新市立博物館が持つ4つの役割は、さまざまな形で互いに関係し合います。また、市民とともに歩む博物館をめざし、役割の担い手には、博物館の職員だけでなく、市民や他の団体なども想定します。

● 新市立博物館の役割

役 割	内 容
① 収集・保存	先人たちが伝えてきた文化遺産を守り、その価値を最大限に生かすため、安曇野にかかわる資料の収集や保存を行います。
② 調査・研究	収集した資料や地域の伝統行事などの調査･研究を行うことで、それらが持つ価値を明らかにします。
③ 発信・連携	調査･研究の成果を、市民共有の財産として進んで展示･発信します。また博物館だけでなく、市民や他の団体と連携して発信することで、調査･研究の成果や収集した資料を幅広く活用していきます。
④ 学び・創造	多くの人々がさまざまな分野に興味･関心を持ち、安曇野の文化を後世に伝えていくための学びの輪を広げます。

● 新市立博物館の役割の関係性



IV 事業･活動構想

事業の基本的な考え方と活動内容

新市立博物館の事業	(1) 基本的な考え方		(2) 活動内容	
1 収集･保存事業	資料保存の専門職員の配置			○資料の収集 ○資料の整理･清掃等 ○資料の適切な保存 ○資料情報のデジタル化 ○市民とともに行う資料の整理と情報収集
	計画的な資料収集・保存			
2 調査･研究事業	学芸員が研究する体制の整備			○文化遺産の調査･研究 ○調査･研究成果のまとめ ○調査･研究成果の公開･活用の検討
	市民による調査・研究のサポート			
3 発信･連携事業	発信	博物館活動を広く公開	発信	○展示 ○現地学習･体験講座 ○「コンパクト展示」の活用 ○調査･研究の成果や展示内容などの発信 ○博物館の活動内容を広める広報･PR
	連携	多様な分野の連携	連携	○フィールドミュージアムづくりに向けた市民連携 ○市内外の文化施設との連携
4 学び･創造事業	学び	学びの輪を広げる	学び	○博物館を応援する市民支援組織の育成 ○子どもたちに伝える活動 ○学びの成果を共有するしくみづくり ○学びの輪を広げる生涯学習支援 ○閲覧図書の備付け
		子どもたちへの対応		
	創造	地域文化の創造	創造	○地域や団体との連携による事業等の開催 ○調査･研究の成果等を地域振興に活用 ○安曇野の文化を再発見する機会を設ける
		安曇野の文化を伝える気運を高める		

1 収集･保存事業例

資料情報のデジタルアーカイブ化
(文化財資料センター)

2 調査･研究事業例

伝統行事の現地調査 (塚原の福俵作り)

3 発信･連携事業例

野鳥観察会 (豊科郷土博物館)

4 学び･創造事業例

昔の暮らし体験教室
(豊科郷土博物館･穂高郷土資料館)

V 施設構想

立地条件

新市立博物館の立地は、博物館の利用のしやすさなどに大きく関わるため、今後、下記のような観点からさまざまな検討を通じて決めていきます。

費用	土地を購入したり造成したりする費用を検討する
規模	資料が十分に入る大きさの収蔵庫 ／ 十分な広さの駐車場 自然･歴史･民俗など複数の分野が展示できるスペース を確保する
個性	周囲の自然環境や文化遺産などを考慮し目的や理念に合った場所を選ぶ
防災	自然災害や、火災などの被害に遭いにくい場所を選ぶ
交通	アクセスに便利な場所を検討する
周辺	博物館が周辺住民の生活環境への影響を考慮する 商業地や住宅地などが博物館へ及ぼす影響を考慮する

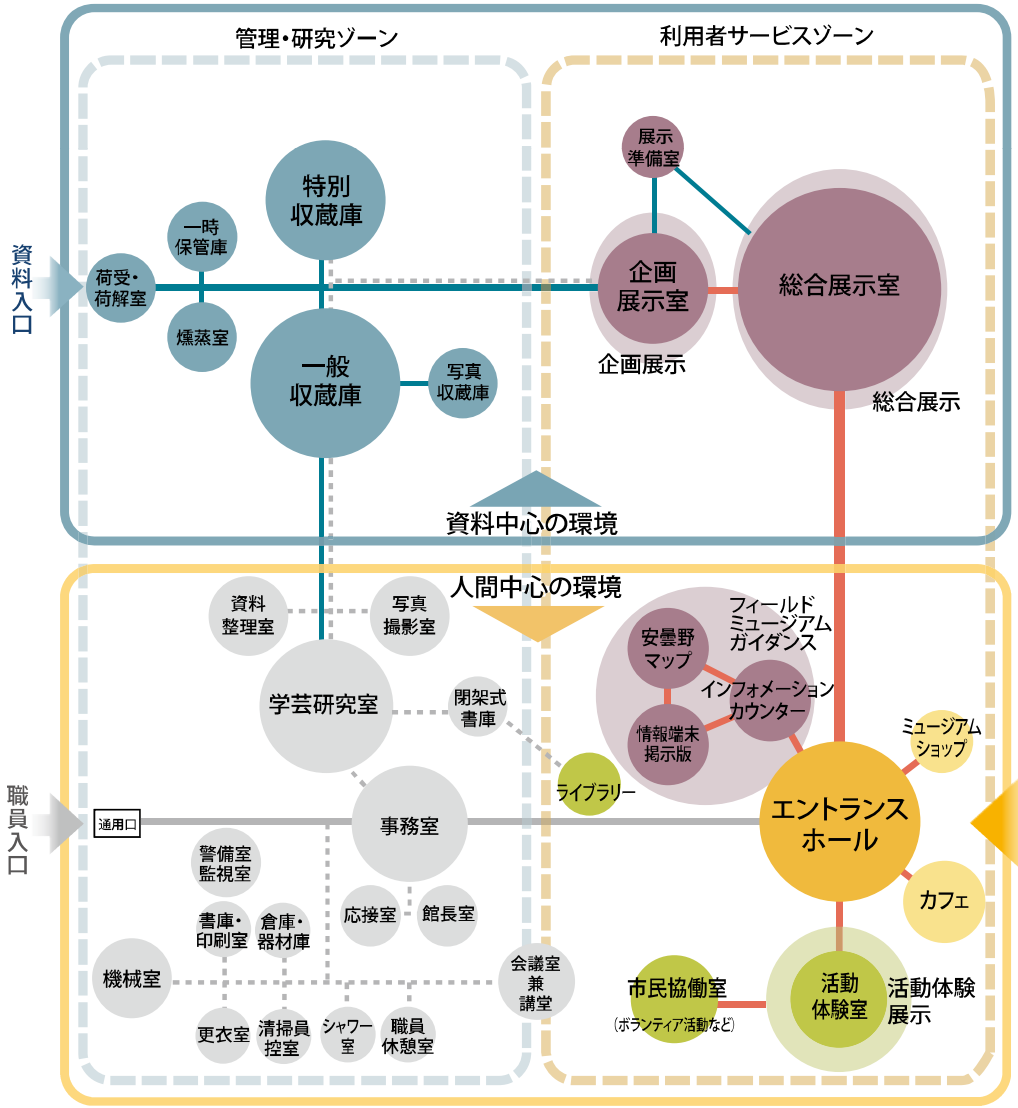
施設規模

安曇野市に必要な施設の規模を検討するにあたり、安曇野市の人口に近い10～20万人の市町村総合博物館の全国平均である3,000㎡を基準にします。

ただし、統廃合する施設から受入れる資料も収蔵することをふまえ、必要な延床面積を4000㎡とします。

施設構成イメージ

博物館は、一般的に「展示部門」「収蔵部門」とその他の諸室を含む「管理部門」の3部門で均等的に施設構成します。新市立博物館もこれにならいますが、「収蔵部門」には統廃合予定施設の収蔵スペースを加算し、「管理部門」には市民とともに活動する「活動体験部門」や多様な人びとの利用を促す「サービス部門」「共用部門」を設けます。



施設規模 約4000㎡

展示部門
約1000㎡
･総合展示室
･企画展示室
･ガイダンス展示 など

収蔵部門
約2000㎡
･特別収蔵庫
･一般収蔵庫 など

管理部門
約350㎡
･特別収蔵庫
･一般収蔵庫 など

活動体験部門
約200㎡
･活動体験室
･市民協働室
･ライブラリー

サービス部門
約100㎡
･ミュージアムショップ
･カフェ

共用部門
約350㎡
･エントランスホール
･共用施設（トイレ）など

利用者動線
職員動線
資料動線

それぞれの動線が交わるのをできるだけ避けます。

展示部門のイメージ

展示室の環境

1　展示環境の住み分け

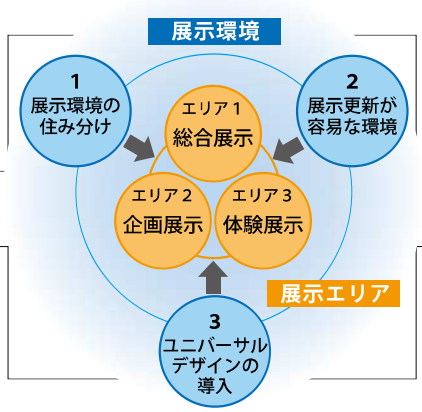
資料保存に配慮した展示環境を整備するとともに、資料に気軽に触れたり、自然に親しんだりして五感を使った体験ができるスペースを設けます。

2　展示の更新が容易な環境

利用者が何度でも来館したくなる新鮮な展示を行うために、資料の入れ替えが容易な展示環境を整えます。

3　ユニバーサルデザインの導入

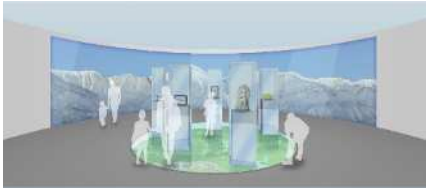
子どもやお年寄り、障がい者など、だれもが快適に利用でき、ストレスの少ない施設の整備を図ります。



「展示部門」に整備する3つのエリア

エリア1　総合展示

地域の特徴ある自然環境や、民俗、歴史などを中心に、展示を通して安曇野の魅力を発信します。また、安曇野市ゆかりの人物も紹介します。



エリア2　企画展示

企画展や、市民による調査･研究成果を展示します。

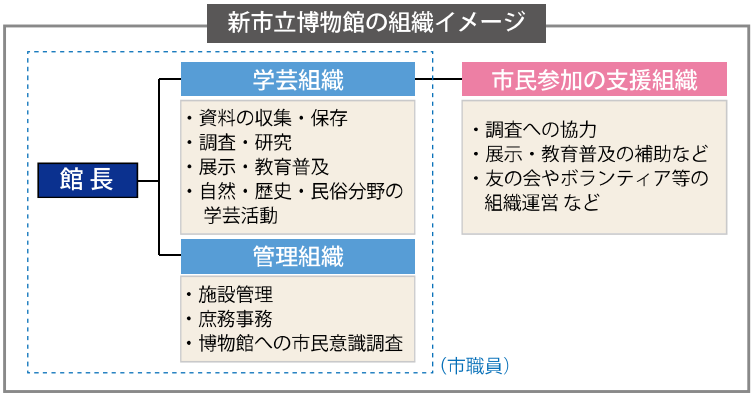
エリア3　体験展示

体験型の講座やワークショップなどを行います。また、民具に触れたり、バーチャル体験ができる屋内展示や、自然に親しめる屋外展示を設けます。

VI 管理運営構想

市民とともにある博物館

市民とともにある博物館を目指し、市民と行政等の連携による博物館の管理運営を検討します。博物館活動への市民意識を定期的に確認するなど、市民サービスの向上を重視するとともに、市民を主役とする新市立博物館の理念の具体化に取り組みます。



安曇野市新市立博物館構想　【概要版】　平成27年11月
安曇野市教育委員会　教育部　文化課　博物館係
〒399-8281　安曇野市豊科6000　Tel 0263-71-2000　Fax 0263-71-2338